

1-2)-10 じっくり時間をかけた面接が長続きする職員の確保につながる

業種 医療福祉

規模 300人以上

● 社会福祉法人 W は複数の知的障害者更生施設、特別養護老人ホーム、ケアハウス、保育園を運営する大規模な社会福祉法人である。

● そのうち最大の施設は入所者 100 名の知的障害者更生施設で、約 50 名の職員で運営している。知的障害者更生施設での支援業務とは、知的障がい者が社会との関わりを持てるように、自立を支援する仕事であり、介護とは異なる。

● 施設ではこの 3 年以内に正職員として 4 人採用し、現在も全員勤務している。4 人とも 20 代～ 30 代の若い男性である。彼らの過去の職歴は様々で、老人ホームでの経験者が 1 人いるものの、それ以外の人 は全くの福祉未経験者である。

● 未経験の若い男性でもこの施設で長続きする理由は、採用時の面接にヒントがある。面接ではお互いのことを十分に理解するように、じっくりと時間をかけて話しをする。運営方針の理念を心から理解できるか

どうか、志望者が本当にこの仕事を理解し、やろうという決意をもっているかどうか、を見ている。この採用方針により採用された職員の d さんは「時間をかけた面接により、自分はここでやっていけると思うことができた」と話す。

● 面接で判断できない場合は、現場を 1 日見学してもらうこともある。その際、1 日施設にいて自分から利用者へ声を掛けることができるか、支援の手を差し出すことができるかが、採用を見極める基準となっている。福祉の現場は現在進行形で待たなし。そのような現場を目の当たりにした時の対応が、今後ここでやっていけるかを見極める判断基準となる。

● 共通の理念を持った職員により運営される施設は、明るく積極的な空気がある。施設内での情報共有は頻繁に行われ、相談しやすく、人間関係も良好な、オープンで働きやすい職場となっている。